

期間限定商品

八坂 里四

朝寝と昼寝は、季節を問わず心地よいものです。昼寝にいたっては場所もわきまえずにウトウトしてしまつことも度々です。

朝寝の心地よさは、会津の小原庄助さんが証明しています。朝酒、朝湯付きの三点セットでなくとも朝寝だけで十分満足します。

起きて庭先に出ると、生命の息吹に満ちた爽やかな春の気分があるのを知りながら、寝床に未練をいつまでも残し、つい寝過ぎしてしまいます。朝寝には、そんな優柔不断を楽しむ遊び心があります。

また、八代亜紀が「舟歌」で「いとしあの子と朝寝する、ダンチヨネ」と唄うように、おらかなエロチシズムもあります。

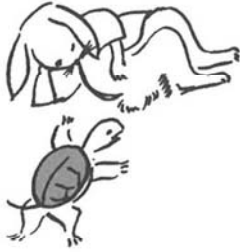
■
「ウサギとカメ」の物語は、いくつかの教訓を示しています。ウサギは、カメ

に負けてしまつて慢心や油断を糾弾されましたが、教訓とは別に昼寝の魅力を伝えています。

ウサギの昼寝に少し通じますが、不摂生でも疲れてもいず、することはあつてもすぐにする気もなく、ちよつと得意げな気分、眠りに誘われる昼寝を、「いいなあ」と思います。

■
昔からの知恵のとおり、昼寝の効用はなによりも、短いひと眠りで夏の夜の寝不足なり、疲れを無くしてくれることです。本格的に眠るわけでもないのに、覚醒と睡眠の間をしばらく漂つたあと、眠りに落ちます。その瞬間を時々鮮明に自覚できるのも魅力のひとつです。

どちらも、季節を問わず心地よいものですが、俳句の世界では、朝寝は春の、昼寝は夏のものなのです。歳時記に、朝寝を春、昼寝は夏の季語と書いてあります。つまり、ふたつとも期間限定商品で



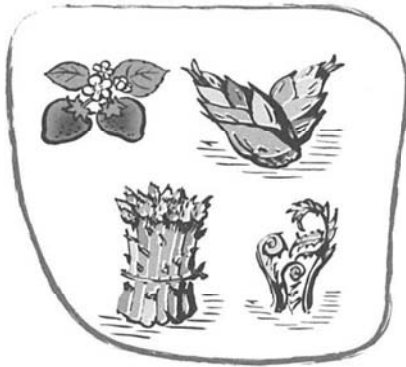
徒然 つれづれ

あつて、年がら年中楽しむものではない
のです。俳句愛好家の意外なまじめさに
驚きます。

不貞寝、ごろ寝などは、周りの人に迷
惑を掛けるだけです。慎むのはいつ
ころに構いません。しかし、朝寝、昼寝
については、期間限定との俳句業界の決
め事があるにせ

よ、知らぬ顔の半
兵衛を決め込ん
で、あの魅力を一
年中楽しみたいも
のです。

季節にお構いな
しに楽しめば、朝
寝、昼寝の魅力を
伝えるために、身
上、財産をつぶし
た庄助さんや、鈍
足のカメに勝ちを
ゆずったウサギを



忘れることはないでしょう。

■
年中と言えば、果物にしてもいつも売
り場があり、季節感が薄らいでいる時世
ですが、季節の草花、旬の食べ物、つま
り期間限定商品に対しては、旬呆けにな
らずに、感度良くありたい、とは思って
います。

そう誓っている
と、「もっともだあ、
もっともだあ」と掛
け声が聞こえてきま
したが、直ぐに「何
をおっしゃるのです
か、季節をわきまえ
ずとは」とのお叱り
の声があったところ
で、頬杖が外れて、
居眠りから目覚めた
のです。